

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田禎一郎

2018年7月29日（日）

主 題：「試練の先にある平安」
－謙遜な者に備えられる－

テキスト：ヤコブの手紙1章9－11節

はじめに

- ・少し前になりますが、ウルグアイのホセ・ムヒカ（**José Alberto Mujica**）元大統領が来日されました。皆さんは、まだ覚えておられるでしょうか。日本中が注目した大統領でした。彼は2010年から2015年まで、第40代ウルグアイ大統領を務めました。日本の多くの人々が、ムヒカ元大統領に注目しました。
- ・では、なぜムヒカ元大統領に多くの人々が関心を寄せたのでしょうか。
それは「世界で最も貧しい大統領」であったからです。たとえば、彼は：
クレジットカード、銀行口座は持たない！
自宅には水道もない！
大統領任期中、豪華な官邸に住まない！（小さな農場で夫人と暮らした）。
大統領専用飛行機は使わない！
（コノミークラスで、あるいは他の国の飛行機に便乗させてもらった）。
大統領の月収は当時、日本円で約97万円。同国の平均月収は約6万円。
ムヒカ元大統領は給与の大部分（約80%）を慈善団体に寄付した。
その他・・・。
- ・ムヒカ元大統領には、このように興味深いエピソードが残っています。
彼の個人資産であったのは、1987年型の愛車フォルクスワーゲン（2014年現在、約200ドル：32万円）でした。アラブ人富豪から100万ドル（約1億1600万円）での売却を打診されましたが、愛車を売らないと言いました。理由は、車は友人たちからの贈物で、「売れば友人たちを傷つけることになる」ということでした。
- ・皆さん。人の生き方はさまざまですね。富を得ようと多数の人が懸命になっている時代、ムヒカ元大統領の生き方は特異な存在です。
- ・そのムヒカ元大統領には、いくつもの名言が残っています。例えば、次のようです。
「人生は短いし、すぐ目の前を過ぎてしまう。命よりも高価なものはない。」
「貧乏な人とは、少ししか物を持ってない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ。」
- ・皆さん！「無限の欲」⇒これこそ、現代人がかかえる問題ではないでしょうか。物資充満の西側世界の市場は、これでもか、これでもか、と豊かさを提供しています。そして社会が、いや世界がそのように動いていることは事実です。

しかし、ムヒカ元大統領の言葉のように、「人生は短い」のです。私たちは何に目を向けているのでしょうか。

- ・今日、私たちは個人生活について考えてみたいと思います。著者は今日のテキストで、「貧しい者たち」、「富んでいる人たち」へと呼びかけました。2点。

大切なポイント

1. 貧しい者たちへ

1:9 貧しい境遇にある兄弟は、自分の高い身分を誇りとしなさい。

1) 貧しいということ

- ・当時、苦難と迫害の下でいろいろな聖徒たちがいました。教会内には主人ピレモンと奴隷オネシモのような、主従関係にある人たちもいました。
- ・つまり、社会的には貧しい人たちと富んでいる人たちが、同じキリストの教会にいたということでした。著者はここで、試練と社会的身分の関係を取り上げています。これは現在にも通じるテーマの一つです。著者は、9節のように「**貧しい境遇にある兄弟は、自分の高い身分を誇りとしなさい。**」と言いました。
- ・貧しいということは、人生におけるひとつの試練です。貧しい境遇にあるということは、単に経済的に貧しいだけではありません。社会的にもさげすまれている状態を意味します。ムカヒ元大統領の名言のように、「無限の欲」にとらわれている人々（貧しい人々）もいます。私たちはいかがでしょうか。
- ・貧しいという言葉の定義ですが、いったい何を持って貧しいというのでしょうか。それは相対的であるからです。皆さんはどう思いますか。

イエスは言われました。マタイ福音書6章

6:31 そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。

6:32 こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。

- ・つまり衣食住が足りているかどうか、ひとつの基準と言えましょう。

2) 誇りとしなさい

- ・ヤコブは貧しい境遇を誇りとしなさい、と言いました。
なぜ、貧しさを誇りとしなさい、と言ったのでしょうか。「誇りとする」という語は、与えられた特権とか所有を自慢するという意味です。どんな意味でしょうか。それは貧しい境遇にあるということは、神が許されていることです。貧しさの中にあるということは、一般的に身が低くなるものです。しかしその人はイエスをキリストと信じる者となるならば、天地を造られた「神の子」となるのです（特権）。それを誇りなさい、という意味です。
- ・どんなに身分が低くても、神の子とされた高い身分を誇りなさい、と教えています。なぜなら神は、持ち物の豊かさによってではなく、内にある信仰によって人を祝福されるお方だからです。イエスは次のように言われました：

マタイ 5章

5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。

- ・みことばは次のようにも述べています。 2コリント 8章

8:9 あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。

- ・イエスは貧しくなられました。それはイエスを信じる私たちが富む者となるためです。また、イエスを信じる者の立場を次のように述べています。

ローマ人への手紙 8章

8:17 もし子どもであるなら、相続人でもあります。私たちがキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているなら、私たちは神の相続人であり、キリストとの共同相続人でもあります。

8:18 今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。

- ・ヤコブの手紙 2章

2:5 よく聞きなさい。愛する兄弟たち。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束されている御国を相続する者とされたではありませんか。

- ・皆さん。神は私たちの信仰を試すために、あえて私たちを貧しい状態に置かれることがあります。置かれた境遇を受け入れることこそ、幸いなことです。その目的は私たちの信仰を試すためです。

{例 話}

- ・カトリック教の修道女であった渡辺和子さん（ノートルダム清心学園理事長）は、「置かれた場所で咲きなさい。」という本を出版されました。この本は、200万冊を超える大ベストセラーとなりました。シスター渡辺は、人は置かれた場所で自分の花を咲かせることが、一番幸いであると説き、多くの人たちが共感を覚えました。
- ・では、どうすれば良いのでしょうか。⇒「謙遜」になることです。

2. 富んでいる者たちへ

1:10 富んでいる人は、自分が低くされることに誇りを持ちなさい。なぜなら、富んでいる人は、草の花のように過ぎ去って行くからです。

1) 富むということ

- ・貧しいことが試練であるように、富んでいることにもまた試練となります。富んでいる人が神の国に入る道は、非常にむづかしいことです。どうぞ、誤解しないでください。聖書は富む者になってはいけない、と教えているのではありません。富む者として立派な方々もいます。
- ・神はある人を富ませることによって、その人の信仰を試されることがあります。富んで

いる者は、富によっては救いを買取ることができないことを知らなければなりません。

- 皆さん。キリストを救い主と信じるためには、たましが砕かれる必要があります。金持ちにとって、謙遜になることは極めて難しいことです。クリスチャンになるということは、たましいが砕かれ、自分が低くされるということです。富んでいる人は、金銭ではなく、低くされたということを誇るべきなのです。

- 富は大変魅力的なものです。なぜなら、この世の中の問題の多くは、富（多くはお金）によって解決できるからです。富の力が人を動かし、社会を動かします。残念ながら、富んでいるために犯してしまう過ちもあります。

- ヤコブは次のように述べました。

2:6 それなのに、あなたがたは貧しい人を軽蔑したのです。あなたがたをしいたげるのは富んだ人たちではありませんか。また、あなたがたを裁判引いて行くのも彼らではありませんか。

2:7 あなたがたがその名で呼ばれている尊い御名をけがすのも彼らではありませんか。富ははかなく、頼りにならないものです。その姿は、聖書の地に生える草花そっくりです。

1:11 太陽が熱風を伴って上って来ると、草を枯らしてしまいます。すると、その花は落ち、美しい姿は滅びます。同じように、富んでいる人も、働きの最中に消えて行くのです。

- イスラエルの草花は通常、2月ごろ美しく咲き始めます。しかし5月に入ると乾季となり、砂漠から吹いてくる熱風によって瞬時に枯れてしまいます。そのように、この世の富もまたたく間に消えていくものです。イザヤ40章

40:6 「すべての人は草、その栄光は、みな野の花のようだ。

40:7 主のいぶきがその上に吹くと、草は枯れ、花はしぼむ。まことに、民は草だ。

{例 話}

- アメリカ自動車製造会社フォード社の元社長であり、その後クライスラー社の会長兼CEO（最高経営責任者）を務めた、リー・アイアコッカ (Lido Iacocca) という方がいます。彼はクライスラーの経営立て直しに成功し、創業以来の高業績を達成しました。

- その彼は世界中で、700万部も売上げた自伝の中で次のように語っています。

「私も人生の夕暮れを迎える歳になった。しかし、人生とはなんであるか、今だに考えあぐねている。しかし、これだけは言える。名声や富は、鳥の餌のようなものだ。」

2) イエスの教え

- イエスは次のように言われました。ルカ12章

12:16 それから人々にたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作であった。

12:17 そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』

12:18 そして言った。『どうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。

12:19 そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。」』

12:20 しかし神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』

12:21 自分のためにたくわえても、神の前に富まない者はこのとおりです。」

皆さん。これは約2千年前にイエス・キリストが言われたことばです。

- ・ 富は神のもので、人々に分配すべきものです。私たちはいかがでしょうか。
(参照：マタイ25章14－29節)
- ・ 私たちはここまで、「貧しい者」、「富む者」という立場について考えてきました。著者は何を語っているのでしょうか。当時のキリスト教会は、迫害と苦難という試練の下に置かれていました。しかし、教会内には問題がありました。それは社会的身分の違いからきたものでした。本来ならば、互いに助け合うべき存在でした。
- ・ しかし、現実には逆で問題がありました。いったい、何が問題の根底にあったのでしょうか。⇒主の前での「謙遜」の欠乏です。
神の前にへり下るといふ姿勢に欠けていました。貧しい者も、富む者も共に必要であることは、主の前で「謙遜」でした。
- ・ では、結局のところ、何が大切でしょうか。
それは、貧しい者も富んでいる者も、同じ方法で神に近づかざるを得ないということです。試練は貧しさの中にある人にとっても、富む人たちの中にあっても、ともに信仰を試す道具となるのです。神は、置かれた境遇で、謙遜となり、信仰によって応答する人を喜ばれるお方です。
- ・ いかがでしょうか。私は置かれた境遇で、真の意味で謙遜となっているでしょうか。

ま と め

主 題：「試練の先にある平安」

— 謙遜な者に備えられる —

- ・ 今日、私たちは大切なことを主から教えられました。それは、私たちは貧しい境遇に置かれようと、あるいは富む境遇に置かれようと、神が置いてくださる試練であることです。試練とは「天秤にかける」ということです。真価が問われようとしているのです。
- ・ なぜ、でしょうか？ ⇒それは「謙遜」を学ぶためです。
神は心へりくだり謙遜な者に、神の国の奥義（御国のすばらしさ）を説き明かしてください。それこそ、「試練の先にある平安」です。ここに神のお心があることを覚えたいと思います。
- ・ 大切なことを、2つのポイントにまとめてみましょう。
 1. 置かれた場所で「謙遜」であること
 2. みことばの教えに忠実であること

* God bless you!